

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成21年3月26日(2009.3.26)

【公表番号】特表2008-530528(P2008-530528A)

【公表日】平成20年8月7日(2008.8.7)

【年通号数】公開・登録公報2008-031

【出願番号】特願2007-554208(P2007-554208)

【国際特許分類】

G 01 N 33/53 (2006.01)

G 01 N 33/531 (2006.01)

G 01 N 33/543 (2006.01)

G 01 N 33/577 (2006.01)

C 07 D 239/553 (2006.01)

C 07 K 16/44 (2006.01)

C 12 P 21/08 (2006.01)

【F I】

G 01 N 33/53 S

G 01 N 33/531 A

G 01 N 33/543 5 1 1 D

G 01 N 33/577 B

G 01 N 33/543 5 2 5 U

C 07 D 239/54 C S P C

C 07 K 16/44

C 12 P 21/08

【手続補正書】

【提出日】平成21年2月2日(2009.2.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

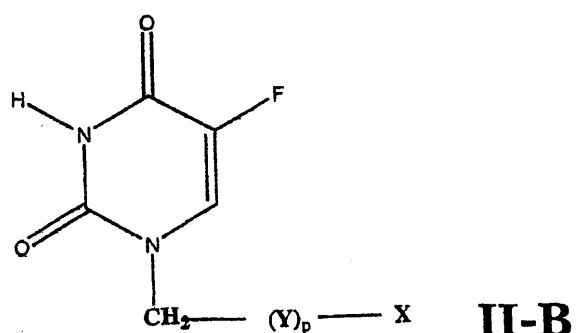
【請求項1】

a) 試料と、

b) テガフルに実質的に交差反応しない5-フルオロ-ウラシルに選択的に反応する抗体と、

c) 一般式

【化1】

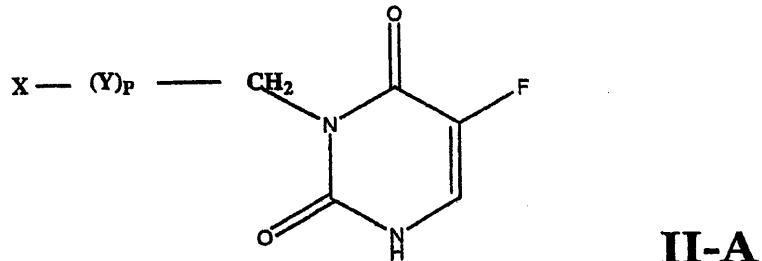


(式中、Yは有機スペーシング基、Xは担体に結合可能な末端官能基、pは0～1の整数)

の化合物、

一般式

【化2】



(式中、X、Y及びpは前記のとおり)

の化合物、

又は、その混合物を伴う担体の共役と

の混合物を用意することを含む試料中の5-フルオロ-ウラシルを検出するための免疫測定法であって、

試料中の5-フルオロ-ウラシル及び前記抗体に結合する前記共役を生じさせ、その後、試料中の5-フルオロ-ウラシルの存在を測定可能とすることによって前記抗体に結合又は未結合の前記混合物中の前記共役量を測定することを特徴とする免疫測定法。

【請求項2】

請求項1記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中のpは0であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項3】

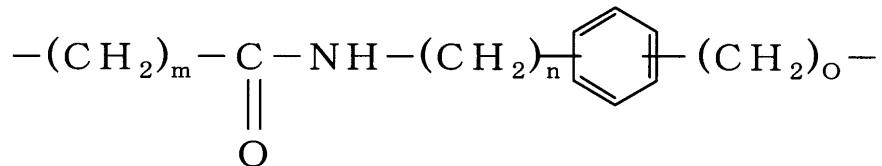
請求項1記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中のpは1であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項4】

請求項3記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中のYは、

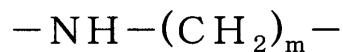
1～10の炭素原子を有するアルキレン又は

【化3】



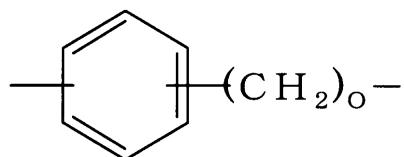
又は

【化4】



又は

【化5】

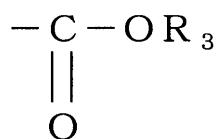


(式中、n及びoは0～6の整数、mは1～6の整数)であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項5】

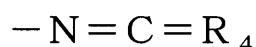
請求項1～4いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中のXは、

【化6】



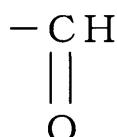
又は

【化7】



又は

【化8】

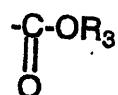


(式中、R₃は水素又は反応エステルをなす酸素原子と結合して得られ、R₄は酸素または硫黄である)であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項6】

請求項1～5いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中のXは、

【化9】

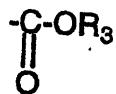


であり、R₃は水素であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項7】

請求項1～5いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中のXは、

【化10】



であり、R₃は反応エステルを形成することを特徴とする免疫測定法。

【請求項8】

請求項7記載の免疫測定法であって、一般式II-Aの化合物及び/又は一般式II-Bの化合物中の前記形成されるエステルは低級アルキルエステル、イミドエステル又はアミドエステルであることを特徴とする免疫測定法。

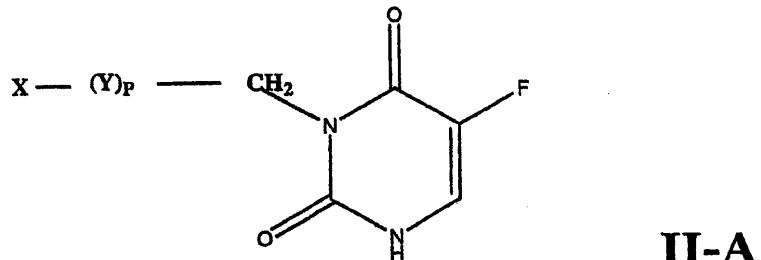
【請求項9】

請求項1~8いずれか一項に記載の免疫測定法であって、前記試料はヒトの試料であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項10】

請求項1~9いずれか一項に記載の免疫測定法であって、前記抗体は、
一般式

【化11】



(式中X、Y及びpは特許請求の範囲1~8のいずれかで定義される)
の化合物と共に作用するポリアミンポリマーを含む免疫原担体を有する免疫原から生じることを特徴とする免疫測定法。

【請求項11】

請求項1~10いずれか一項に記載の免疫測定法であって、前記抗体は固形支持体に付着していることを特徴とする免疫測定法。

【請求項12】

請求項11記載の免疫測定法であって、前記固形支持体はマイクロタイタープレートであることを特徴とする免疫測定法。

【請求項13】

請求項11記載の免疫測定法であって、前記固形支持体は微小粒子であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項14】

選択的に5-フルオロウラシルに結合し、実質的にテガフールに結合しないことを特徴とする抗体。

【請求項15】

請求項14記載の抗体であって、前記抗体はモノクロナール抗体であることを特徴とする抗体。

【請求項16】

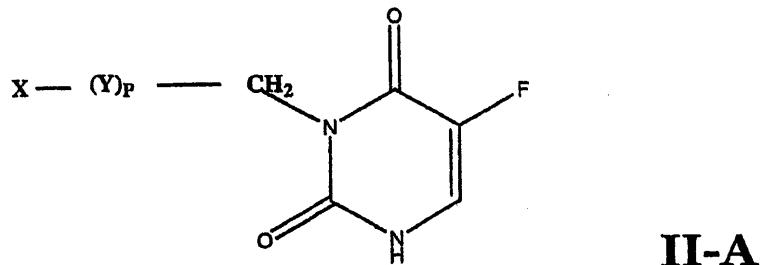
請求項14又は請求項15記載の抗体であって、前記抗体はマウス、ウサギ又はラット由来のものであることを特徴とする抗体。

【請求項17】

請求項14~16いずれか一項に記載の抗体であって、前記抗体は実質的にウラシル及びシトシンと交差反応しないことを特徴とする抗体。

【請求項 18】

請求項 14 ~ 17 いずれか一項に記載の抗体であって、前記抗体は、
一般式
【化 12】

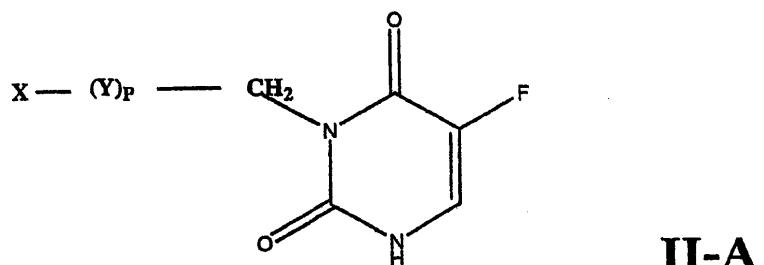


(式中、X、Y及びpは、請求項1~8いずれかで定義される)
の化合物に共役したポリアミンポリマーを含む免疫原担体由来のものであることを特徴とする抗体。

【請求項 19】

一般式

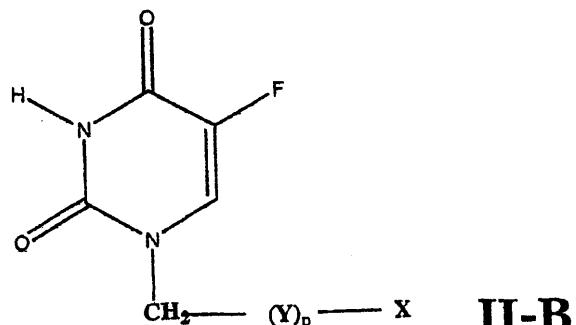
【化 13】



(式中、X、Y及びpは、請求項1~8いずれかで定義される)
の化合物、

一般式

【化 14】

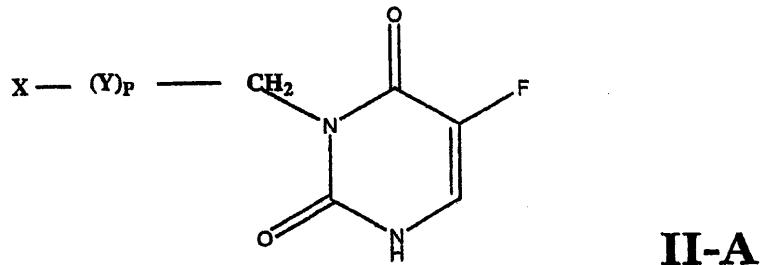


(式中、X、Y及びpは、請求項1~8いずれかで定義される)
の化合物、
又は、その混合物。

【請求項 20】

一般式

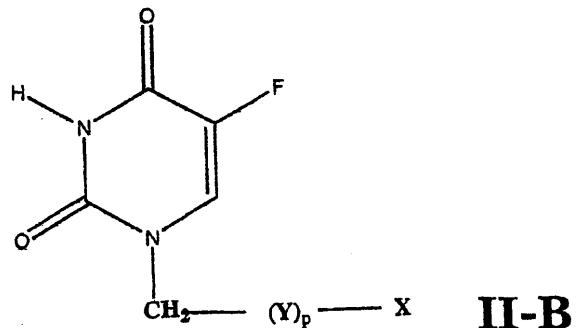
【化15】



(式中、X、Y及びpは、請求項1～8いずれかで定義される)
の化合物、又は、

一般式

【化16】

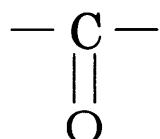


(式中、X、Y及びpは、請求項1～8いずれかで定義される)
の化合物、
又は、その混合物を伴う担体の共役。

【請求項21】

請求項20記載の共役であつて、担体は、

【化17】



又は

【化18】

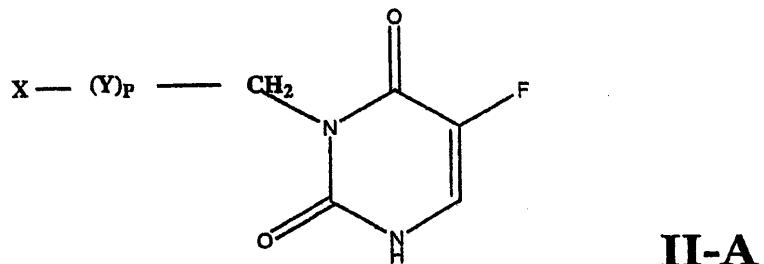


(式中、R₄は酸素又は硫黄)
によって結合された1つ以上のアミノ基を含むことを特徴とする共役。

【請求項22】

一般式

【化19】



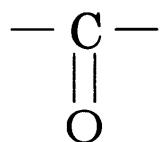
(式中、X、Y及びpは、請求項1～8いずれかで定義される)

の化合物に結合するポリアミンポリマーを含む免疫原担体を含む免疫原。

【請求項23】

請求項22記載の免疫原であって、免疫原ポリマーは、

【化20】



又は

【化21】



(式中、R₄は酸素又は硫黄)

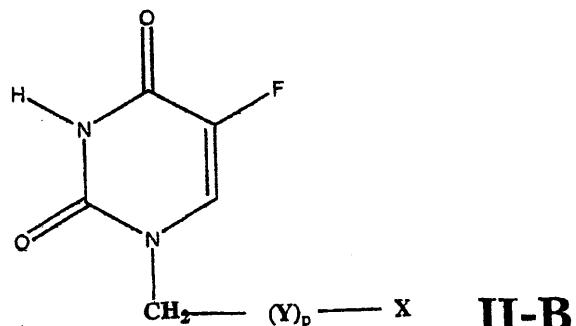
によって結合される1つ以上のアミノ基を含むことを特徴とする免疫原。

【請求項24】

分離した容器に試薬を含み、患者試料中の5-フルオロウラシルの存在を検出するキットであって、

試薬の1つは、一般式

【化22】

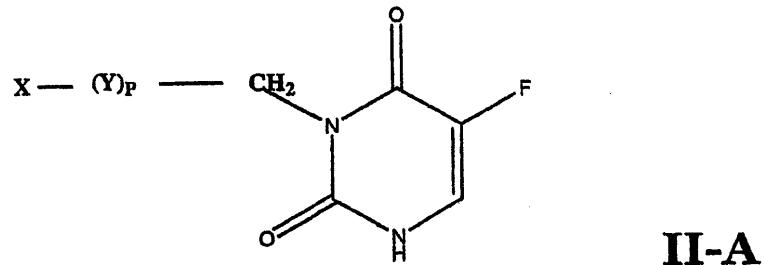


(式中、X、Y及びpは、請求項1～8いずれかで定義される)

の化合物に伴う担体の共役、

又は、一般式

【化23】



(式中、X、Y及びpは、請求項1～8いずれかで定義される)

又は、それらの混合物であり、

第2の容器は、5-フルオロ-ウラシルに実質的に選択的に反応し、テガフルに実質的に交差反応しない抗体を含むことを特徴とするキット。

【請求項25】

請求項24記載のキットであって、前記共役は前記第1の容器に予め決められた量存在することを特徴とするキット。

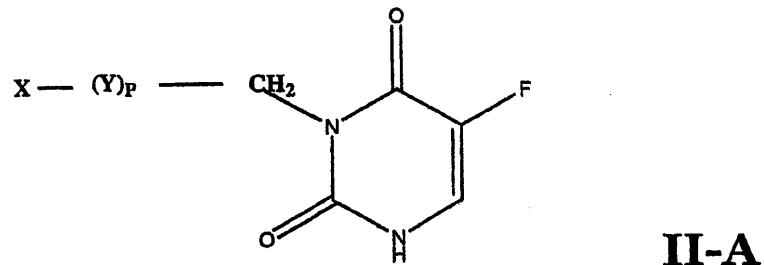
【請求項26】

請求項24又は請求項25記載のキットであって、前記キットは前記試料中の5-フルオロ-ウラシルの量を測定するのに用いられることを特徴とするキット。

【請求項27】

請求項24～26いずれか一項に記載のキットであって、前記抗体は、
一般式

【化24】



(式中、X、Y及びpは、請求項1～8いずれかで定義される)

の化合物に結合する免疫原ポリアミンポリマーの免疫原から生じることを特徴とするキット。